

職業実践専門課程の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地																										
福井ホテルトラベル専門学校		昭和59年12月22日		大原 陵路		〒910-0854 福井県福井市御幸1-5-20 (電話) 0776-21-0001																										
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地																										
学校法人大原学園		昭和54年4月1日		中川 和久		〒101-0065 東京都千代田区西神田1-2-10 (電話) 03-3291-7981																										
分野		認定課程名		認定学科名		専門士		高度専門士																								
商業実務		商業実務専門課程		総合ビジネス科		平成27年文部科学省 認定		—																								
学科の目的		教育基本法および学校教育法に基づき、ホテル・旅行・観光並びにこれらビジネスに関する教育を施し、人格の陶冶を行い、有為な産業人の育成を目的とする。																														
認定年月日		平成29年2月28日																														
修業年限		昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位数	講義		演習		実習		実験		実技																				
2年		昼間	1700	1320		1815		180		0		0																				
生徒総定員		生徒実員		留学生数(生徒実員の内)		専任教員数		兼任教員数		総教員数		時間																				
40人		26		11		2		4		6																						
学期制度		■前期: 4月1日～9月30日 ■後期: 10月1日～3月31日				成績評価		■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 学業成績の判定は、秀・優・良・可・不可の5種をもってこれを表し、別に定める基準によりGP(Grade-Point)を与える																								
長期休み		■学年始: 4月1日 ■夏季: 校長が別に定める ■冬季: 校長が別に定める ■春季: 校長が別に定める ■学年末: 3月31日				卒業・進級条件		卒業の認定は、修業年限以上在学して、1700時間以上を履修し、かつ以下に定める単位数以上を修得し、卒業審査に合格した者について、校長が行う。 進級の認定は、定める授業時間の履修及び単位の修得を行い、かつ出席状況等の学習姿勢も考慮の上、進級判定委員会にて審査を行う。																								
学修支援等		■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 担任を中心に本人・保護者へヒアリング・指導を行い、問題を1つずつ解決していく				課外活動		■課外活動の種類 ボランティア活動 全日本電卓競技大会 運動系クラブ活動 ■サークル活動: 有																								
就職等の状況※2		■主な就職先、業界等(令和2年度卒業生) 一般企業(べにや旅館、相互トラベル、福鉄商事、三谷組、吉岡幸) ■就職指導内容 全体指導によるレクチャー 個別面接トレーニングなど ■卒業生数: 9人 ■就職希望者数: 9人 ■就職者数: 9人 ■就職率: 100% ■卒業者に占める就職者の割合: 100% ■その他 ・進学者数: 0人 (令和2年度卒業者に関する 明治33年1月0日時点の情報)				主な学修成果(資格・検定等)※3		■国家資格・検定/その他・民間検定等 (令和2年度卒業者に関する令和3年5月1日時点の情報) <table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>国内旅行取扱管理者試験</td> <td>③</td> <td>9人</td> <td>7人</td> </tr> <tr> <td>ホテルビジネス実務検定</td> <td>③</td> <td>9人</td> <td>8人</td> </tr> <tr> <td>観光英検2級</td> <td>③</td> <td>9人</td> <td>5人</td> </tr> <tr> <td>英検2級</td> <td>③</td> <td>9人</td> <td>2人</td> </tr> </tbody> </table> ※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等) ■自由記述欄 (例) 認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等					資格・検定名	種	受験者数	合格者数	国内旅行取扱管理者試験	③	9人	7人	ホテルビジネス実務検定	③	9人	8人	観光英検2級	③	9人	5人	英検2級	③	9人	2人
資格・検定名	種	受験者数	合格者数																													
国内旅行取扱管理者試験	③	9人	7人																													
ホテルビジネス実務検定	③	9人	8人																													
観光英検2級	③	9人	5人																													
英検2級	③	9人	2人																													
中途退学の現状		■中途退学者 0名 ■中退率 0% 令和2年4月1日時点において、在学者19名(令和2年4月1日入学者を含む) 令和3年3月31日時点において、在学者19名(令和3年3月31日卒業者を含む) ■中途退学の主な理由 無し ■中退防止・中退者支援のための取組 中途退学の兆しとして、欠席・遅刻・早退の増加、授業への集中力の欠如及び検定試験への受験意欲の低下などに現れる。よって、以下の内容を防止策として取り組んでいる。 (1) 欠席等の防止 一定の欠席累計到達者に対する面談による改善指導など (2) 学習に対する意欲低下 目指す職業に就くためのカリキュラム(検定試験含む)の必要性を説明するガイダンスなどを定期的実施している。 (3) その他 学校行事などの運営(運動会・球技大会・研修旅行)																														

経済的支援制度	<p>■学校独自の奨学金・授業料等減免制度： 有</p> <p>①試験による特別奨学生制度：がんばる人を支援するために「試験による特別奨学生制度」を実施しています。この制度は、大原独自の特別奨学生試験の結果に応じて入学金・授業料の全額または一部を免除するものです。</p> <p>②資格・クラブ活動による特別奨学生制度：がんばる人を支援するために「資格・クラブ活動による特別奨学生制度」を実施しています。この制度は、大原学園入学までに取得した資格や成績を一定のランクに認定し、そのランクに応じて入学金・授業料の全額または一部を免除するものです。</p> <p>■専門実践教育訓練給付： 給付対象</p>
第三者による学校評価	<p>■民間の評価機関等から第三者評価： 無</p> <p>※有の場合、例えば以下について任意記載 (評価団体、受審年月、評価結果又は評価結果を掲載したホームページURL)</p>
当該学科のホームページURL	http://www.o-hara.ac.jp/hokuriku/senmon/

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業者の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

(1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について

①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。

②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者を含みません。

③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2)「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について

①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業者数のうち就職者総数の占める割合をいいます。

②「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う)。

(3)上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進

3. 主な学修成果(※3)

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

当コースを志望する学生は、旅行業界もしくはホテル業界に就職することを目的として入学してくる。そのため、教育内容についても県内の旅行業を総括する旅行業協会と旅行会社と連携して最新の動向が反映できる教育課程の編成を行っている。特に専門的かつ実践的な知識・技術を修得した即戦力となる為、企業等からの意見や助言を素早く取り入れるようにしている。尚、当コースで必要な学習内容は多岐にわたる。例えばインプット学習の中心となる旅行観光に関する詳細な知識や各地の地理に関する情報はもちろんの事、運賃や行程などを細かく計算する応用力も必要であり、さらには、英語、中国語などの外国語や、おもてなし等に必要対人スキルも必要になる。そのため、現時点で必要とされているビジネススキルや今後必要となってくるであろう最新の動向に関しても、常に教育課程編成委員会を通じて業界の情報を反映させている。

また、上記の様に各エリアから編成された授業科目の他にも、各分野の本部からのアドバイス等を頂くという教育課程の2重の編成を行っている。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

①位置づけについて

教務部(課)の上位に教育課程編成委員会を設置し、企業等からの提言を参考にして本校の教育課程編成について協議策定するための機関として位置づける。また、委員会での協議結果は大原学園教育本部に提出し、大原学園全校の教育課程編成にも活用していく。

②意思決定の過程について

(ア)学科の目的に基づき予め学内において現状の課題等を明確にした上で、教育課程編成委員会に提言を求める。

(イ)委員会では企業等からの意見を参考に次年度以降の教育課程編成に関する改善案を策定する。

(ウ)教育課程編成委員に教育現場の責任者である校長、副校長、教務課長、教務課長補佐が参加することで、企業等の委員から提示された課題、改善提案を速やかに次年度以降の教育課程(授業科目、内容、手法)の編成に反映させることができる。

(エ)学園全体で共通する内容は学園教育事業部へ報告し、教育事業部で協議の上、教育課程編成に反映する。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和〇年〇月〇日現在

名 前	所 属	任 期	種 別
高井良 民雄	一般社団法人福井県旅行業協会 代表理事	令和2年4月1日～令和4年3月31日(2年)	①
今村 京花	福井旅行株式会社	令和2年4月1日～令和4年3月31日(2年)	③
大原 陵路	福井ホテルトラベル専門学校 校長		
川上 浩司	福井ホテルトラベル専門学校 副校長		
山内 博樹	福井ホテルトラベル専門学校 教務課長		
齋藤 大	福井ホテルトラベル専門学校 教務課長補佐		

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合には、種別の欄は空欄で構いません。)

①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)

②学会や学術機関等の有識者

③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回 (8月、12月)

(開催日時(実績))

第1回 令和2年8月17日～26日 ※新型コロナ感染者発生に伴い、書面、個別ヒアリングにて実施

第2回 令和2年12月11日 14:00～15:30

令和3年度

第1回 令和3年8月6日 14:00～15:30

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

コロナ禍において、業界全体としても厳しい環境に置かれている。そのため、課程編成委員より、カリキュラムや資格試験対策等に対する要望よりも、今後の業界の将来を担うであろう旅行コースの学生の質の更なる向上を望まれる意見が多く聞かれた。具体的には、一人で多くのお客様のお相手ができる事や、一人で何役も熟すことができる機転の良さを発揮できる事や、能動的に行動出来き図太く営業ができる事等を切望されていた。なお、当校としても、実習・演習の内容に委員からの要望を織り込んだケーススタディを増やして行く事にした。

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

- ①学内で行なわれる学習科目が多いことを考慮して、企業等との連携の下、実習・演習の組立を行なう。
- ②企業等との連携による実習・演習を通じて学生のより実践的な知識・思考・技術の修得と、社会人としての意識改革を実現する。
- ③企業等から実習・演習の授業内容、手法に関して具体的な助言を仰ぎ、学生の知識・技術の修得状況に対して実践で活かせるレベルか否かを企業等の実務の視点から評価を仰ぐ。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

ツアープランニング実習等、授業運営に関して企業等と協定書を締結、打合せを行い、下記の4点について講義内容の質向上のために連携している。

- ① 実習授業内容構築へのサポート
- ② 当該実習授業における評価ポイントの確認
- ④ 学生の学修習熟状況の評価
- ③ 授業方法に関する教員への指導

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
ツアープランニングⅠ	学生自ら国内もしくは海外旅行プランを企画し、さらに必要な各種手配も行う総合的な演習を実施。	杉本 千秋((株)福井旅行)
ホテル現場実習Ⅰ	客室の種類、レセプション業務、フロント業務、インフォメーション業務、レストラン業務などホテルマンの業務理	ホテルフジタ福井

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針
 専門的かつ実践的な知識・技能を有し即戦力となる人材を育成するためには、教員一人ひとりが常に実務に関する最新の知識を持ち、指導スキルを身につけなければならない。
 「大原学園 教職員研修規程」の目的に定めるとおり、教職員が専攻分野に関する知識・技能・企画力・判断力等を高めるための環境を整備し、所属長の指示または本人の意志により、公平に研修等を受講する機会を与えるものとする。校内、校外において学園が企画する研修は下記のとおり。
 ①教育課程編成委員会に参画する企業等から講師を派遣した実践的な知識・指導スキル研修
 ②大学教授等、専門分野に特化した講師として招いた研修会の実施
 ③学内に設置される附帯教育講座を利用した自己啓発
 実務に関する研修、指導力の修得・向上のための研修について、さらに効果的な研修にするため、研修回数の増加や日程変更などの見直しを実施している。

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名「 旅行業界に必要な人材となるために必要な事について」(連携企業等: 福井旅行株式会社)

期間: 令和3年1月28日(木) 対象: ホテル旅行関係職員

内容: 旅行業界に必要な人材像について講演形式でレクチャーを受けた。特に事業所で接客する場合や観光地などの旅行先で必要な対応力などについて、非常に実務的な内容であった。なお、職員も学生指導において目標となる内容であり、非常に有意義な機会であった。

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名: 「アンガーマネジメント&アサーション」(連携企業等: 坂井高等学校)

期間: 令和2年12月15日(火)

内容: 上級教育カウンセラー 向井 清和 様

1. 怒りとは、2. アンガーマネジメントで心を整える、3. アサーションで正当な怒り方を身につける
- 学生指導において、「怒りを超えていくために」必要な考え方や方法を学んだ。

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名「 調整中 」(連携企業等: 福井旅行株式会社)

期間: 令和4年2月頃 対象: ホテル旅行関係職員

内容: 調整中

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名: 「教育相談(思春期、青年期と向き合うために)のケーススタディ」(連携企業等: 坂井高等学校)

期間: 令和3年12月13日(月) 予定

内容: 上級教育カウンセラー 向井 清和 様

- (過去2年間で実施した教育相談関連の研修を受けて、具体的な事例を挙げてのケーススタディ研修を計画中。詳細は、今後打合せのうえ、決定)

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1)学校関係者評価の基本方針

当学園の教育理念は、学生に対して資格取得教育、実務教育を施し、人格の陶冶を行いもって有為な産業人を育成することである。この教育理念に基づき実践的な教育が実現出来ているか、また、その教育を実現するために必要な環境が整っているかについて、学校関係者評価委員を設置して下記に示す評価項目から評価する。課題の残る評価結果については、課長職以上の管理職より改善計画を策定し、次年度以降の学校運営に反映させ改善を図る。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	①理念・目的・育成人物像は定められているか。
(2)学校運営	①運営方針は定められているか。
(3)教育活動	①各学科の教育目標、育成人材像は、その学科に対応する業界の人
(4)学修成果	①就職率(卒業者就職率・求職者就職率・専門就職率)の向上が図ら
(5)学生支援	①就職に対する体制は整備されているか。
(6)教育環境	①施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるように整備されて
(7)学生の受入れ募集	①学生募集活動は、適正に行なわれているか。
(8)財務	①中長期的に学校の財政基盤は安定しているといえるか。
(9)法令等の遵守	①法令、設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか。
(10)社会貢献・地域貢献	①学校の教育資源や施設を活用した社会貢献を行なっているか。
(11)国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

今年度の学校関係者評価委員会においても、昨年に引き続き、学生の社会適応能力の低下について多くの意見を頂いた。学生が社会人へと自立していくために現在実施している実学教育と人格形成教育の内容をさらに充実させる必要性をあらためて確認した。また、欠席超過、就職支援等、特別な配慮が必要な学生が多くなっていることについては、教職員の対応スキルを高めていくことが必要で、そのために専門家による研修等を実施していく。なお、実際の対応については他の

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和3年10月22日現在

名前	所属	任期	種別
今村 京花	福井旅行株式会社	令和2年4月1日～ 令和4年3月31日(2年)	企業等委員

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ)

URL:

公表時期: 令和3年9月30日

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

①実践的な職業教育における成果を広く周知することにより、入学希望者の適切な学習機会選択に資すること。そのために、学校関係者評価結果も含めて教育活動の状況や課題など学校全体に関する情報を分かりやすく示すこと。

②また、上記①により企業等との連携による教育活動改善を活発にし、社会全体の信頼に繋げていくこと。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	①学校の概要 ②目標・方針・特色 ③所在地、連絡先④学校の沿革
(2)各学科等の教育	①カリキュラム、時間割、目指す資格②検定、資格取得・検定試験合格
(3)教職員	各学科の担当教員紹介
(4)キャリア教育・実践的職業教育	各学科の実習紹介
(5)様々な教育活動・教育環境	①学校行事 ②クラブ活動
(6)学生の生活支援	学習や学校生活に対する不安解消(先輩の声)
(7)学生納付金・修学支援	①学生納付金 ②奨学金、学費減免等の紹介
(8)学校の財務	学園の財務状況公開
(9)学校評価	学校関係者評価結果
(10)国際連携の状況	留学生の募集
(11)その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

(ホームページ)

URL : <https://www.o-hara.ac.jp/about/hyoka/>

授業科目等の概要

(商業実務専門課程総合ビジネス学科)															
分類	授業科目名			授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択					講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
1	○			一般教養Ⅰ	ビジネスで一般的に使用される熟語、四字熟語、慣用句などを学ぶ。	1・後	30	1	○	△		○	○		
2	○			キャリアデザインⅠ	面接試験において求められるビジネスマナーの基礎を学ぶ	1・後	30	1		○		○	○		
3	○			キャリアデザインⅡ	会社などの組織を理解し、最低限身につけなければならないスキルの学習	1・前	30	1	○	△		○	○		
4	○			マナー・プロトコールⅠ	マナー・プロトコールの基本的知識を学ぶ	1・前	60	2	○	△		○	○		
5	○			観光英語Ⅰ	観光英語3級10月受験(基礎期)	1・前	60	1	○	△		○	○		
6	○			観光英語Ⅱ	観光英語3級10月受験(答練期)	1・後	30	1		○		○	○		
7	○			言語知識(英会話)Ⅰ	テキストによる講義と問題演習により、知識の定着を図る(4月から9月にかけて実施)	1・前	30	1		○		○	○		
8	○			言語知識(英会話)Ⅱ	テキストによる講義と問題演習により、知識の定着を図る(10月から3月にかけて実施、スピーチコンテスト)	1・後	30	1		○		○	○		
9	○			英検総合対策Ⅰ	英検準二級(4月から9月)	1・前	30	2		○		○	○		
10	○			英検総合対策Ⅱ	英検準二級10月受験(10月から11月)	1・前	30	1		○		○	○		
11	○			英検総合対策Ⅲ	英検二級(1月から3月)	1・後	30	1		○		○	○		
12	○			言語知識(中国語)Ⅰ	中国人ネイティブ講師による講義	1・後	45	2		○		○	○		
13	○			職業実践(演習)Ⅰ	ツアープランニング(海外)	1・後	60	2		○		○	○		

14		○	旅行マーケット I	旅行マーケティングの基礎知識を学び、簡単な旅行プランを企画する	1・前	60	2		○	○	○						
15		○	国内旅行基礎(業法) I	国内旅行業務取扱管理者試験の旅行業法について学ぶ	1・前	30	2	○		○	○						
16		○	国内旅行基礎(約款) I	国内旅行業務取扱管理者試験の旅行業約款について学ぶ	1・前	30	2	○		○	○						
17		○	国内旅行基礎(地理) I	国内旅行業務取扱管理者試験の国内地理について学ぶ	1・前	30	2	○		○	○						
18		○	国内旅行基礎(運賃) I	国内旅行業務取扱管理者試験の国内運賃・料金計算について学ぶ	1・前	45	3	○		○	○						
19		○	国内旅行応用 I	国内旅行業務取扱管理者試験の問題演習	1・前	60	2		○	○	○						
20		○	総合旅行基礎(出入国法令) I	総合旅行基礎授業(10月から3月)	1・後	30	2	○		○	○						
21		○	総合旅行基礎(実務) I	総合旅行基礎授業(10月から3月)	1・後	30	2	○		○	○						
22		○	総合旅行基礎(運賃、地理) I	総合旅行基礎授業(10月から3月)	1・後	30	2	○		○	○						
23		○	国内観光資源応用 I	国内地理検定対策	1・後	30	1		○	○	○						
24		○	国内観光資源応用 II	国内地理検定対策	1・後	30	1		○	○	○						
25		○	サービス介助士 I	サービス介助士について学ぶ	1・後	45	2	○	△	○	○						
26		○	サービス介助士 II	サービス介助士について実地で学ぶ	1・後	15	1	○		○	○						
27		○	ツアープランニング I	ツアープランニングの方法を学ぶ	1・後	30	2		○	○	○						○
28		○	旅行講演 I	外部企業による講演	1・前	15	1	○		○	○						
29		○	旅行講演 II	外部企業による講義	1・後	30	1		○	○	○						
30		○	鉄道概論 I	鉄道業界知識(11月から3月)	1・後	15	1	○		○	○						

31		○	エアライン講演 I	外部企業による講演	1・後	15	1	○			○	○		
32		○	ホテルブライダル概論 I	ホテルの概要を学ぶ	1・前	15	1	○			○	○		
33		○	ホテルブライダル基礎 I	ホテルの基本、宿泊部門の業務、料飲部門の業務について学ぶ	1・前	15	1	○			○	○		
34		○	ホテルブライダル実務 I	ホテルの基本、宿泊部門の業務、料飲部門の業務について学ぶ	1・前	30	1	○			○	○		
35		○	ホテルブライダル概論 II	ウェディングに係る仕事について学ぶ	1・前	15	1	○			○	○		
36		○	ホテルブライダル基礎 II	ウェディングサービスの基本を理解する	1・前	15	1	○			○	○		
37		○	ホテルブライダル実務 II	ウェディングサービスの基本を理解する	1・前	30	1		○		○	○		
38		○	色彩概論	色彩の基本を理解する	1・前	30	2	○			○	○		
39		○	色彩応用	色彩検定3級合格に向けて、問題演習をおこなう	1・前	30	1		○		○	○		
40		○	ホテル概論 I	ホテル業界の概要を学ぶ	1・後	15	1	○			○	○		
41		○	ホテル実務 I	H検定 B 2 級対策	1・前	30	2	○			○	○		
42		○	ホテル概論 II	H検定 B 2 級対策	1・後	15	1	○			○	○		
43		○	ホテル実務 II	H検定 B 2 級対策	1・後	30	2	○			○	○		
44		○	ホテル接客 I	表現力を上げるための講義・実技指導を行い、コミュニケーション能力を養う	1・前	45	2		○		○	○		
45		○	ホテル現場実習 I	2 学期インターン	1・前	45	1				○	○	○	○
46		○	ホテル現場実習 II	2 学期インターン	1・後	45	1				○	○	○	
47		○	ホテル講演 I	外部企業による講演	1・後	15	1	○			○	○		

48	○		一般教養Ⅱ	漢字の学習を通じ、ことわざや故事成語など 国語分野に関する知識まで身につける	2・ 前	30	1		○	○	○						
49	○		言語知識（英 会話）Ⅲ	英会話 4月から9月	2・ 後	30	1		○	○	○						
50	○		言語知識（英 会話）Ⅳ	10月から1月に実施（スピーチコンテスト あり）	2・ 前	30	1		○	○	○						
51	○		英検総合対策 Ⅳ	英検二級・TOEIC（4月から9月）	2・ 前	30	1		○	○	○						
52	○		英検総合対策 Ⅴ	TOEIC（10月から11月）	2・ 後	30	1		○	○	○						
53	○		言語知識（韓 国語）Ⅰ	韓国人ネイティブ講師による講義	2・ 後	45	2		○	○	○						
54	○		キャリアデザ インⅢ	社会環境を理解し、課題をクリアする力を身 につける為の学習	2・ 前	30	1	○	△	○	○						
55	○		キャリアデザ インⅣ	社会環境を理解し、課題をクリアする力を身 につける為の学習	2・ 前	30	1		○	○	○						
56	○		マナー・プロ トコールⅡ	マナー・プロトコールの知識を学ぶ	2・ 前	60	2	○	△	○	○						
57	○		職業実践（演 習）Ⅱ	ツアープランニング（国内）	2・ 後	60	2		○	○	○						
58	○		ビジネスマ ナー	ビジネス電話対応や接客、接遇に関するルー ルを学習する	2・ 後	60	2	○	△	○	○						
59	○		マーケティ ング概論	マーケティングの必要性と目的を学習する	2・ 後	30	2		○	○	○						
60	○		プレゼンテ ーション概論	企画から発表までの一連の流れ	2・ 後	30	1		○	○	○						
61	○		時事研究	現代社会における主要な時事の基本用語を理 解し、自分の考えや意見を持つための学習	2・ 後	15	1		○	○	○						
62		○	WORD基礎	PCの基礎操作並びにWordの基礎操作を理解す る	2・ 前	30	1		○	○	○						
63		○	WORD応用	PCの基礎操作並びにWordの基礎操作を理解す る	2・ 前	30	1		○	○	○						
64		○	EXCEL基礎	Excelの基礎操作並びに関数の効果的な使用法 を習得する	2・ 後	30	1		○	○	○						

65		○	EXCEL応用	MOS Excel試験に合格するために必要な操作に関する総合的な知識を身につけるための演習	2・後	30	1		○	○	○						
66		○	伝統文化Ⅰ	日本の伝統文化である華道・茶道を学ぶ	2・前	15	1	○		○	○						
67		○	伝統文化Ⅱ	書道の基本を学ぶ	2・前	15	1	○		○	○						
68		○	ツアープランニングⅢ	ツアープランニングの基本を学び、ツアーを企画する	2・前	45	2	○	△	○	○						
69		○	パソコン実習Ⅰ	Word、Excelを操作するための基礎的な知識を身につける実習	2・前	30	1		△	○	○						
70		○	総合旅行演習(約款)Ⅰ	総合旅行受験対策(4月から7月)	2・前	30	1		○	○	○						
71		○	総合旅行演習(出入国法令)Ⅱ	総合旅行受験対策(4月から7月)	2・前	30	1		○	○	○						
72		○	総合旅行演習(実務)Ⅱ	総合旅行受験対策(4月から7月)	2・前	30	1		○	○	○						
73		○	総合旅行演習(運賃、地理)Ⅱ	総合旅行受験対策(4月から7月)	2・前	30	1		○	○	○						
74		○	総合旅行応用Ⅰ	総合旅行受験対策(9月)	2・後	30	1		○	○	○						
75		○	総合旅行応用Ⅱ	総合旅行受験対策(9月)	2・後	60	2		○	○	○						
76		○	総合旅行基礎(業法)Ⅰ	総合旅行受験者用	2・後	15	1	○		○	○						
77		○	総合旅行基礎(国内実務)Ⅰ	総合旅行受験者用	2・後	15	1	○		○	○						
78		○	海外観光資源応用Ⅰ	海外地理検定対策	2・後	30	1	○		○	○						
79		○	海外観光資源応用Ⅱ	海外地理検定対策	2・後	30	1	○		○	○						
80		○	トラベルマーケティング応用	旅行観光総合コース学習	2・後	30	2	○		○	○						
81		○	トラベルビジネスマナー	ホテルスタッフとしてのビジネスマナーを学ぶ	2・後	60	2		○	○	○						

82		○	サービス介助士Ⅰ	サービス介助士について学ぶ	2・後	45	2	○	△	○	○						
83		○	サービス介助士Ⅱ	サービス介助士について学ぶ	2・後	15	1	○	△	○	○						
84		○	ツアープランニング応用	ツアープランナーコース実習	2・後	120	4		○	○	○						
85		○	鉄道マーケティング応用	旅行・鉄道・観光のマーケティング	2・後	30	2	○		○	○						
86		○	鉄道ビジネスマナー	旅行会社のカウンターにおける知識、ビジネスマナーを学ぶ	2・前	60	2	○		○	○						
87		○	ホテル実践Ⅰ	接客	2・後	30	1	△	○	○	○						
88		○	ホテル実践Ⅱ	料飲	2・後	30	1	△	○	○	○						
89		○	ホテル実践Ⅲ	宿泊	2・後	30	1	△	○	○	○						
90		○	ホテル実践Ⅳ	会計等	2・後	30	1	△	○	○	○						
91		○	ホテル概論Ⅲ	ホテル業界の概要を学ぶ	2・後	15	1	△	○	○	○						
92		○	ホテル実務Ⅲ	ホテルの基本、宿泊部門の業務、料飲部門の業務について学ぶ	2・前	30	2	△	○	○	○						
93		○	ホテル概論Ⅳ	ホテル業界の概要を学ぶ	2・後	15	1	○		○	○						
94		○	ホテル実務Ⅳ	宴会部門、調理部門、マーケティング部門の業務について学ぶ	2・後	30	2	○		○	○						
95		○	宿泊プランニング	ホテルマーケティングの知識を基に、宿泊プランを考える	2・後	60	2	△	○	○	○						
96		○	ホテルマーケティング応用	PCPホテルマーケティング	2・後	45	3	△	○	○	○						
97		○	ホテルビジネスマナー	ホテルスタッフとしてのビジネスマナーを学ぶ	2・後	60	2	△	○	○	○						
98		○	バンケットサービス実習	2学期インターン	2・後	60	2			○	○	○					

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
<p>(定期試験等) 学業成績は、授業科目ごとに行う定期試験のほか、授業科目により中間試験や授業内を行う効果測定、課題の提出等により評価する。なお、本校において必要と認められた場合に限り、追試験又は再試験を行うことがある。追試験は事故等やむを得ない理由により試験等を受験しなかった者に対し行う。再試験は試験等受験の結果、不合格となった者に対して実施する。</p> <p>2 各授業科目の成績評価方法については別に定める。</p> <p>(学業成績) 学業成績の判定は、秀・優・良・可・不可の5種をもってこれを表し、次のとおりとする。 秀は90点以上、優は80点以上、良は60点以上、可は50点以上、不可は49点以下とする。</p> <p>2 授業科目の成績は前項の5種で表すと共に、それぞれの評価に対して、別に定める基準によりG P (Grade-Point) を与える。</p> <p>(単位の授与) 授業科目の履修成績において、秀、優、良、可を取得した学生には所定の単位を与える。</p> <p>(他の大学・専修学校等における授業科目の履修等) 教育上有益と認める時は、校長の認めるところにより、他の大学・専修学校の専門課程における授業科目の履修を、本校における授業科目の履修とみなすことができる。</p> <p>2 前項により本校専門課程における授業科目の履修とみなすことができる単位数は転学等の場合を除き、本校専門課程の修了に必要な単位数の2分の1を超えないものとする。</p> <p>(進級) 進級の認定は、各学科の各学年において定める授業時間の履修及び単位の修得を行い、かつ出席状況等の学習姿勢も考慮の上、進級判定委員会にて審査を行う。</p> <p>(卒業の認定) 卒業の認定は、修業年限以上在学して、以下に定める授業時数以上を履修し、かつ以下に定める単位数以上を修得し、卒業審査に合格した者について、校長が行う。</p>	1 学年の学期区分	2 期
<p>(進級) 進級の認定は、各学科の各学年において定める授業時間の履修及び単位の修得を行い、かつ出席状況等の学習姿勢も考慮の上、進級判定委員会にて審査を行う。</p> <p>(卒業の認定) 卒業の認定は、修業年限以上在学して、以下に定める授業時数以上を履修し、かつ以下に定める単位数以上を修得し、卒業審査に合格した者について、校長が行う。</p>	1 学期の授業期間	2 2 週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。